

時評

〈10月〉

山田 健太

大多数の無関心層に対し、選挙支持層をはじめとする献花台に並び弔意を表する安倍晋三ファンと、安倍政治は許さないとしてきた国葬反対の抗議の声をあげるとして安倍一掃とした構図の中での11月20日を迎えた。想定通りの社会の分断状況が垣間見えた1日だったが、本欄でも指摘してきたとおり、それは安倍政治のスタイルそのものでもあった。

とりわけ第2次政権以降は、社会が割れた瞬間に言

邸の勝ちが決まるのが通例で、反対勢力の音が強まるほどに自民党も含めた賛成側はより対抗心を燃やして推進力が増すという、分断ありきの手法が定着していた。その象徴は、弔辞なかで名指された自民党の長年の懸案だった法だった。安倍法制、特定秘密保護法、共謀罪の強行採決である。

この三つは表現の自由という観点からも、緊急事態法制・秘密保護法制・名誉毀損法制（批判の自由の制

残念だった紙面

翌日の新聞紙面を一言でいえば「残念」だ。一つは想定通りの紙面作りだった点で、安倍元首相に対する態度、親か反かで紙面がきれいに割れた。読者は重なりであった。なお安倍政権

国葬のマスク報道

「安倍晋三元首相 国葬」の紙面を多岐にわたる大見出しで、中央に掲げた弔典の大きな写真で弔意を示した。西紙とも抗議活動は社会面で小さく扱いつつ、まとめ

約」といった表現規制の3本柱をそのまま実現する法制度でもあった。こうした言論の自由への脅威を作り続けた着の「偽善」を新聞やテレビではどう伝えたかまとめておきたい。

記録、解説が不十分 軍葬もどき、強制検証を

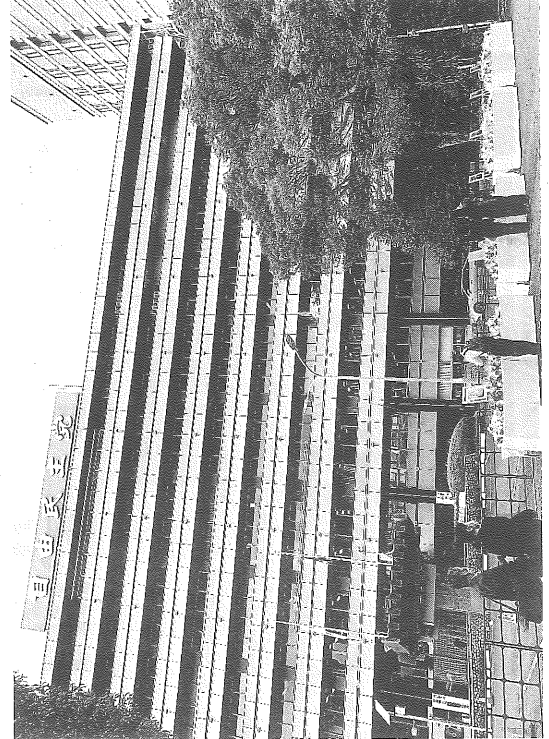
辞からとった一節「真のリーダーだった」を真出しに据えることも、「国葬首相が主導」と現首相も含めた強いリーダーシップを評価する紙面が目をつけた。社説でも、「誰の内心の自由が侵されたというのか」「初めから「国葬反対」の前提に立つて…遺族への配慮も欠いていよう」と国葬反対を厳しく批判する内容だった。同様に産経も1面解説で「安倍氏に静かな感謝を示した「サイト」や「マシヨリナイ」に応える意味でも、国葬を実施

時代政府ととりわけ厳しく、国葬そのものをきりきりと報しることが必要だったのではないかと。今回の首相国葬の吉田茂が「国葬」の趣意であったとするならば、それを前例とし、むしろより強調されたのは自衛隊の存在ではないか。海外から見れば、「国葬」と呼ぶに相応しいかのような、出発点の私邸や経団地の防衛費での儀仗隊員送りに始まり、自衛隊隊式に則ったとされる天皇制あるいは軍事国家を想起させる楽曲が続く弔典こそ、きちんと「解説」す

れど、十分に検討の時間があったにもかかわらずである。

事実上の強制は

本紙も含め、弔意の強制を取り上げた紙面は少なかつた。しかし、事前のアンケートや弔意の写真を満足してしまった面はなかった。例えば、黙列の実施も写真だけでなく、起立して一斉に黙列した職場で、座ったまま、片内アウンを流したか流さなかったかなど、東京の中央官庁内でも対応はまちまち



自民党本部の献花台

伝える意味

もちろん今回の国葬（儀）は特定の政治家の評価に上るという点で、統一協会との関係性も含め、安倍政治をどう評価するかと直結している面が強く、こうした観衆の紙面作りは当然でもある。国葬報道の意味として、実施したことの課題を省くことも整理することは大切で、必要な要素であらう。ただし、記録という点でいえば、単に「ドキュメント」として弔辞を掲載したり、市井の賛否の声を拾うだけではな

る必要はなかった。同じことは涙の弔辞でもはなされた。菅前首相の弔辞における山縣有朋の扱いは共通する。

教育勅語や軍人勅諭の誕生と深いかかわりを持つ山縣は、言つまでもなく戦前の忠臣・皇國教育、皇國國家形成の立役者であり、民主制とは相いれぬ存在だ。沖繩においてこそ、そうした人物を尊める安倍や菅、その弔辞に拍手を送る者や仲間に対し、強い疑問を呈する必要があるのではな



△下

オランダで開かれた国葬委員会第3回と議論を交わす岸内閣府長官の19月20日

美といった技術も生かした新しい考え方の自然史博物館があるとい。

佐賀県立自然史博物館

んでいる。大きく前進するし、歴史がけられる。

一沖繩の可能性は、

歴史をどう、全部無か

琉球

文明狂の

今宵も終わらぬ

嗚呼、ちほりし

華麗なる文明たる

森に響くシロ

枯れ井戸にただ立

萬葉に響くカニ

栄光ある社会も

暗い未来に背を回

美しく自然だけに

度々な未来に背を

「輝くものさす

それでも自映し

「本当に大切な

それでも眠る姿

巨大な輝き

我らは星夜に祈

今宵も終わらぬ

嗚呼、ちほりし

あまみ、かおる

学部海洋自然科学

ふりお交響「

◇第1◇

おきなわ本出品

14社から5千冊

31日までシロ

第4回おきなわ本

(主催：沖繩出版協会)

形勢不安のシロ